酒々井町
郷土研究会々報
第84号
平成9年4月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

本佐倉城跡周辺の散策（二）

高橋健一

東国大名八家の居城跡に、千葉氏の本佐倉城跡、佐竹氏の太田城跡（現・茨城県常陸太田市）、宇都宮氏の宇都宮城跡（現・栃木県宇都宮市）、結城氏の結城城跡（現・茨城県結城市）、小山氏の祇園城跡（現・栃木県小山市、国指定史跡）、小田氏の小田城跡（現・茨城県つくば市）、那須氏の烏山城跡（現・栃木県烏山町）、常陸大掾氏の府中城跡（現・茨城県石岡市）があります。

その中で、十五世紀の末期から十六世紀の末期まで千葉氏の居城となっていた本佐倉城跡は、その当時には下総国印幡郡印東庄佐倉といわれていた酒々井町本佐倉と佐倉市将門町（旧・下総国印幡郡本佐倉村、同大佐倉村）に良好な遺構を残しています。地理的にみると鹿島香取海の入江の一部であった印幡浦（現・印旛沼）に面した土地に立地していますが、印幡浦では水運が盛んに行われていました。

ところで、『広報ニュースイ』平成八年十一月号、同年十二月号、『こうほう佐倉』同年十一月十五日号には、酒々井町と佐倉市で、この本佐倉跡のうち約一〇・八ヘクタールの土地について、国史跡指定申請を行ったこと、平成八年十月十八日に文化庁の文化財保護審議会から国指定史跡に指定するという答申があったこと、平成八年度中には官報に告示され、千葉県内では二十二番目（城跡では初めて）の国指定史跡になる見込みであることが報じられています。

『鎌倉大草紙』によりますと、文明三年（一四七一）六月二十四日に長尾景信が古河公方足利成氏の下総国古河城（現・茨城県古河市）を攻落しましたが、成氏は古河城を逃れて「千葉をさしておちたまふ」事態となり、下総守護千葉氏の家系に連なる千葉介孝胤（永正二年八月十九日没）を頼っています。その地は土地の伝承などからみて下総国平山城（現・千葉市緑区平山町字長谷部、旧・下総国千葉郡平山村字長谷部）であったと考えられます。

そして、『妙見実録千集記』には、孝胤は平山城から長峰城（現・千葉市若葉区大宮町字城ノ越、旧下総国千葉郡長峰村）に城を移し、その後に佐倉に移ったとあります。この点『千学集抜萃』には「天明（文明の誤り）十五年甲辰六月三日佐倉の地を取らせらる、庚戌六月八日市の立はしめ、同八月十二日御町の立はしめ也」として、文明十五年（癸卯）、或いは甲辰であれば文明十六年（一四八四）に本佐倉城を築き、延徳二年庚戌（一四九〇）に市・町を取り立てたとありますが、その実年代の信憑性は不明です。しかし、本佐倉城跡の発掘調査の結果などからみると、十五世紀の末期には千葉氏の居城となっていたことは事実と考えられます。ただし、孝胤の時期の城郭の規模・構造がどの程度のものであったのかははっきりとはしません。

以後孝胤の家督を継いだ本佐倉城主二代目の千葉介勝胤（享禄五年五月二十一日没）が現在見られる城跡の基本形を整備するとともに、曹洞宗の勝胤寺や時衆道場（時宗）の海隣寺、法華宗の妙胤寺を建立しました。このころの歴史については、外山信司氏の『『雲玉和歌集』と印旛の浦―本佐倉城主千葉勝胤との関連を中心に―』（『印旛沼―自然と文化―』三号に詳しく述べられています。

そして以後、相模国小田原（現・神奈川県小田原市）の北条氏に従属した本佐倉城主三代目の千葉介昌胤（天文十五年正月二十四日没）、同四代目の千葉介利胤（天文十六年七月十二日没）、同五代目の千葉介親胤（弘治三年八月七日家臣に殺害されに）が家督を継承、さらに親胤の家督を継いだ本佐倉城主六代目の

千葉介胤富（天正七年五月四日没）が永禄七年（一五六四）から同九年の間に土木工事を加えた（井田文書）、本佐倉城主七代目の北条氏物主（部将）千葉介邦胤（天正十三年五月七日家臣に殺害された）を最後に、本佐倉城は千葉介孝胤系統の千葉氏の居城としての性格には終止符を打ったのでした。

本佐倉城主七代目の邦胤の室は、天正八年（一五八〇）五月晦日に没した北条氏政娘「芳桂院殿貞室隆祥大禅尼」ですが、その婚姻は邦胤の父胤富が望んだものでした（拙著『芳桂院―戦国期東国の一女性とその周辺―』）。

また長塚孝氏が「「小田原一手役之書立」考」（『戦国史研究』十七号）で、天正十年十一月から同十一年五月頃の状況に基づいて作成されたと指摘された「小田原一手役之書立写」（佐野家蔵文書）には「さくら七郎殿」とありますので、千葉氏の名跡をめぐる人物として天正十七年の文書に登場する北条氏政の子息北条七郎直重もその頃にはすでに佐倉城に入っていたことが知られます（原文書、影写本原文書など）。北条直重の動向については、黒田基樹氏の「北条氏の佐倉領支配―「御隠居様」氏政の動向を中心として―」（中世房総史研究会編『中世房総の権力と社会』高科書店）で詳しく述べられています。

そして、千葉介邦胤が没すると北条氏は本佐倉城を接収して直接支配下に置き、本佐倉城に対して土木工事を行いました。その工事も天正十三年中の十二月十日以前には「佐倉普請之儀、悉出来」というように完成しています（小幡文書）。これ以後、本佐倉城は千葉氏の本城から北条氏の支城へと変容することになったのでした。

また黒田基樹氏の「「御隠居様」北条氏政と江戸地域―戦国末期江戸の史的位置―」（東京都北区教育委員会『文化財研究紀要』七集）に詳しく述べられておりますように、天正十五年十一月からは武蔵国江戸地域を支配していた北条氏政が直接的に北条氏の支城領佐倉領に対する支城領主支配をも展開しています。それに伴い遠山犬千世殿宛の天正十五年に推定される九月八日付の北条氏直書状には「作倉当番之外之者」とあり、佐倉城には江戸遠山衆の一部が在城していたことも知られています（潮田文書）。

このような情勢の中、天正十八年五月には浅野弾正少弼長吉（長政）・木村常陸介一（重茲）ら豊臣秀吉軍の進攻を迎えるに至ったのでした（勝胤寺文書）。そのころの状況については、市村高男氏の「豊臣政権と房総―里見分国上総没収をめぐって―」（『千葉県史研究』二号）に詳しく述べられています。

ところで、本佐倉城という名称は、江戸時代に徳川氏の譜代大名が封じられた佐倉城（現・佐倉市城内町）と区別するのには便利ですが、実際には戦国期の文書に「佐倉御普請」、また「佐倉普請之儀」と見えるように、歴史的にみると佐倉城とするのが正しいといえます。しかし、ここでは従来から使用され、国指定史跡申請の名称を使用することにしました。

以後、本稿は本佐倉城跡周辺の歴史スポットを散策しようと試みたもので、散策の起点は本佐倉の西隣に位置する京成大佐倉駅（現・佐倉市大佐倉、旧・下総国印旛郡大佐倉村）としました。そして千葉氏や本佐倉城の歴史については、そのところどころで改めて触れていこうと思います。

第二十一回定期総会報告

平成九年一月二十六日（日）午後一時三十分より酒々井町中央公民館講堂において、第二十一回定期総会を開催いたしました。よきお天気にめぐまれ、百十余名の会員の出席のなか、金杉公民館長さんの御臨席をたまわり、吉岡町長さんのお言葉を代読していただきました。

会田会長より会長挨拶の中で、郷土研究会創立二十周年記念行事等の報告及び謝辞があり、行武議長のもとで平成八年度の事業報告及び決算報告と監査報告。平成九年度の事業計画案及び予算案が審議され、満場一致で承認されました。

続いて役員改選年度にあたり新役員として高木正浩さんが研修部へ、斉藤日出子さんが野草の会部へ、木村雍子さんが広報部へ入部し紹介されました。旧役員の玉井さん、福田さん、山内さん、白石さん、武藤さん、市川さん、渡辺さん、野中さん、長い間御苦労さまでした。

第84号（No.3）　酒々井町郷土研究会々報　平成9年4月1日(火)

酒々井町郷土研究会平成9・10年度役員・運営委員名簿

役名	氏名	住所	TEL	役名	氏名	住所	TEL
顧問	沖田善三郎	[redacted]	[redacted]	運営委員	有田政勝	[redacted]	[redacted]
〃	田村直子	[redacted]	[redacted]	〃	行武政市	[redacted]	[redacted]
会長	会田秀雄	[redacted]	[redacted]	〃	斎藤日出子	[redacted]	[redacted]
副会長	青木朝次	[redacted]	[redacted]	〃	佐藤照子	[redacted]	[redacted]
〃	上田悦子	[redacted]	[redacted]	〃	林芳子	[redacted]	[redacted]
会計	福田照子	[redacted]	[redacted]	〃	久我かず子	[redacted]	[redacted]
〃	福田芳江	[redacted]	[redacted]	〃	江沢武夫	[redacted]	[redacted]
監事	福田豊吉	[redacted]	[redacted]	〃	古川国雄	[redacted]	[redacted]
〃	中村寛	[redacted]	[redacted]	〃	富澤勝	[redacted]	[redacted]
運営委員	筋玉子	[redacted]	[redacted]	〃	木村雍子	[redacted]	[redacted]
〃	鶴岡知子	[redacted]	[redacted]	〃	相京豊	[redacted]	[redacted]
〃	上野和子	[redacted]	[redacted]	〃	高橋喜重	[redacted]	[redacted]
〃	寺本恵美	[redacted]	[redacted]	〃	桜井徳三	[redacted]	[redacted]
〃	高木正浩	[redacted]	[redacted]				

平成9年度事業計画表

H9.1.1
H9.12.31

	事業名		説明	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1	町内史跡めぐりハイキング		年1回（教育委員会代表 ヤ 明 ヤ）					○							
2	見学会	日帰り	福内・県外 (1)(2)の日帰り 年3回			3/16 ○		○					○		
		1泊	年1回											○	
3	史談会		年7回		2/28 ○	3/5 ○		○	○	○		○			○
4	野草の会（年4回）	七草粥を食べる会	年1回		1/25 ○										
		山菜を食べる会	年1回				○								
		野草観察の会	年2回				○					○			
5	名勝探訪		年5回	1/19 ○			○		○			○			○
6	郷土史講座		年1回（教育委員会代表 ヤ 明 ヤ）								○				
7	会報発行		年4回	1/5 ○			○			○			○		
8	運営委員会		年5回	1/26 ○		○			○			○			○
9	総会		年1回（平成9年1月26日 第21回）	1/26 ○											

七草粥を食べる会 会計報告

会費 700円　参加者数 83名

収入　83 × 700 ＝ 58,100

支出　食品外材料費 52,882

残高　5,218 ……郷土研へ

郷土研日誌

平成9年1月
平成9年3月末

月日	内容	参加者数	月日	内容	参加者数
1/8	平成8年度会計監査	7人	2/25	部長会議	11人
1/14	総会準備 運営委員会	18	3/1	史談会 NO.18 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」	22
1/19	名勝探訪 金藏寺方面	47	3/7	運営委員会	20
1/26	第21回定期総会	113	3/12	編集会議	5
2/8	史談会 NO.17 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」	18	/	研修部会	11
2/18	七草粥を食べる会準備	12	3/25	編集会議	7
2/23	七草粥を食べる会準備	10	3/26	日帰り見学会 関宿方面	45
2/24	会報会議	5	3/29	第84号会報発送	23
2/25	七草粥を食べる会	83		延人数	457

町花スイセン

亀井香久乃

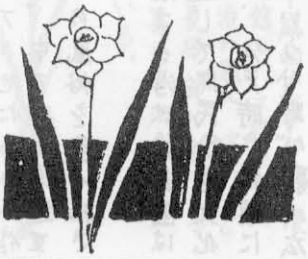
郷土酒々井町の花、水仙について、ひと言述べてみましょう。

早春の肌寒の頃、ほのかな香りを漂わせ、凛然と咲き立つ水仙には理性を感じます。

彼岸花科の此の花は、地中海沿岸原産で、古い時代に中国を経て日本に渡来したと言われています。水仙に纏わる伝説は種々あります。なかでも有名なのは、美少年ナルシスが、湖水に映える自分の姿に恋し、水仙の花に化身したというギリシャ神話から名付けられた話です。

花言葉は＝うぬぼれ。我が欲。喇叭水仙＝片想い。尊敬。だそうです。恋人への贈花にはどうでしょうか？。

栽培品では、口紅水仙。大輪水仙。房咲水仙。又は可憐な糸水仙。以上は、西洋から明治以後日本に入ったようです。ご参考までに。



七草粥を食べる会に想う

松井 信子

暖かな春の日差しに誘われて公民館まで歩いて参りますと、そこここから、ほのかに梅の薫りが漂ってきました。

七草粥を食べる会には、義母と共に三度目の参加となります。義母は毎年、この会の参加を楽しみにしているようです。

日頃スーパーや八百屋には、所せましと多種多様な野菜が並んでいますが、忙しい世の中、旬の味を味わうことも忘れがちです。七草を揃えることも困難になりつつあるこの頃ですが、役員さん達の努力で今年も七草の粥を食することができ、本当に豊かな気持ちになりました。

又、お手伝いで早目に公民館に着きますと、会場は七草にちなんでテーブルが用意され、壇上には七草のイラスト、各テーブルには鑑賞用の七草が置かれていました。食べるだけではなく、目で見て楽しめるという趣向もあり、「毎年ユニークな企画を」と心がけて下さっている方々のやさしさを感じました。

調理室の方では、お手伝いの方々が手際よく調理し終え、ほぼ盛り付けも終わった頃、お米からお粥を炊く為に、鍋の前に数人ずつ吹きこぼれないように見張ることになり、目は鍋に注がれながらも楽しいおしゃべりに花を咲かせました。

いつもお手伝いの折、先頭に立って指導して下さる先輩のお姿が見えず、ちょっと寂しい思いをしました。

行事を通じて先人達の生活の知恵に触れ、学ぶことも多いこのような催しに参加し、改めて我が家の食生活や健康について考えさせられた一日でした。

次の会を楽しみにしております。今から来年のことを言うと鬼に笑われるでしょうか。

七草粥を食べる会献立表

平成9年2月25日

1.	七草粥	米、せり、なずな、ごぎょう、はこべら、ほとけのざ、すずな、すずしろ
2.	煮もの	こんにゃく、にんじん、はす、ごぼう、しいたけ、さといも、きぬさや、とり肉
3.	和えもの	ほうれんそう、にんじん、豆腐
4.	香のもの	いそな、きゅうり、たくあん
5.	デザート	和菓子、いちご

酒々井町郷土研究会

（当日のメニュー）

菱川師宣記念館を訪れて

上野 和子

一月のある晴れた日、穏やかな海の傍にある鋸南町立菱川師宣記念館を訪れました。鋸南町はあの「見返り美人」の作者、菱川師宣の生誕の地で、国道一二七号線沿いに生家跡（県史跡）もあります。この記念館には、師宣や多くの浮世絵師の作品が展示されていますが、この日は「房総浮世絵版画展」が催されていました。

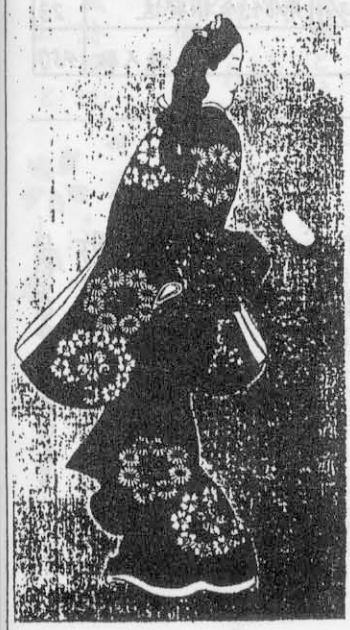
師宣は一六三〇年頃鋸南町保田で生まれました。縫箔刺しゅう業を営む父親を手伝っていましたが、その時経験した下絵を描く技術が浮世絵師として大成した要因だといわれています。

彼が最初に手がけたのは版本の挿絵といわれ、当時文学的だった版本を、絵の部分を大きくクローズアップさせたものに作り上げました。中でも吉原遊里や歌舞伎などの風俗を多く描きました。

師宣から始まる浮世絵版画は江戸時代を通じて庶民絵画文化として隆盛し、江戸時代後期には風景版画という分野が歌川広重、葛飾北斎らによって確立されました。

房総は風光明媚な土地として多くの名所旧跡があり風景画の好画題として数々の名作が誕生しています。館内には葛飾北斎、歌川豊国、歌川広重、歌川国芳などの作品が数多く展示されていますが、その中に成田山旅宿、成田山境内、九十九里地引網の図などもあり改めて浮世絵芸術のすばらしさに魅せられました。

見学後鯨漁のようすを描いた版木で版刷りの体験学習をしました。



師宣肉筆画「見返り美人図」

鎌倉に思う

杉坂一

十九日は大寒の前日にもかかわらず穏やかな見学会日和にめぐまれ、鎌倉では皆様と楽しい一日を過ごさせて戴きました。過去何度か訪れた地ですがいつ見ても美しく行く度に新発見のある所です。さすが古都・鎌倉です。いつも思うことですが外国人の多いことです。昔人の素晴しい技芸は、美術の先輩国ヨーロッパの人々にも深く理解されているのでしょう。大仏のやさしく穏やかな顔は作者の優れた信念の表れだと思います。

鎌倉駅での解散が予定より一時間程早かったので神苑ぼたん園へ誘っていただきました。初めて見るその広大な美しさは上野公園ぼたん園の遥かにその上をいくものです。みごとに咲く数々のぼたん、その中の二つの黄色のぼたんは小さく形もよいとはいえませんが、その鮮かな色は珍しくよい経験をしました。

鎌倉駅からの直通電車の中ではひと眠りでき帰宅は午後七時半でした。

町内史跡めぐり

今回は、「本佐倉城跡」発掘に直接携われた印旛郡市文化財センターの木内達彦氏が案内して下さいます。

町内散歩にしてはハード、少々きつい散歩になります。お隣りの佐倉市内にふみこんでしまうので往復十キロ近くの道程です。

ポイント

1. 本佐倉城跡
2. 八幡神社
3. 将門山大明神（日之宮神社）
4. 桔梗塚

◎本佐倉城跡

県名千葉の由来ともなった関東屈指の豪族千葉氏の居城となった大きな城跡ですが、時勢の転変で天正十八年（一五九〇年）滅び、人は散り、館なども失せて、地形のみを残し以後四百数十年経った今、町、地元、佐倉周辺の方々による保存会のご活躍で保存され、このたび中世の遺跡として国の文化財指定を受けることになりました。

本丸、二の丸、倉あと、セッタイ山空壕など見学します。

◎八幡神社

将門山の鎮守様、十月の御祭礼は盛大をきわめていたそうで、昭和の初めの頃には、この神社の神輿が酒々井の方まで練ってきたそうですが、何かのわけがあって沙汰止みし、今は長い参道の奥にひっそりと鎮まっています。

◎将門山大明神（日之宮神社）

石の鳥居と天然木（マテバシイ）のみで社殿はありません。佐倉城主堀田上野介正信が石の鳥居を建立しました。

将門伝説は諸々あり、何故か霊魂のたたりや恐れのまつわり説が多く見られます。

◎桔梗塚（桔梗の前）

広く開かれた畠地の真中に一本の道すじがあり、その行き当りに一段高く盛土された塚の木の下に碑が建っています。将門の愛妾で「桔梗の前」といわれ、彼女は藤原秀郷の娘で、敵方の廻し者であったといわれています。

ここ一面に桔梗が生えていましたが花が一つとして咲かなかったと言われ、将門を裏切ったゆえということです。

碑に刻まれている一首

「花もなくしげれる草の桔梗こそ
いつのときせに花のさくらむ」

以上ご案内まで。

K・K記

見学案内

日帰り見学

茨城・雨引観音方面　5/13（火）

新緑若葉に咲えて風かおる五月、古刹をたずね、花と緑の饒渓に楽しい一日を過して下さい。

◎月山寺（岩瀬町西い塙）

天台宗の寺で、徳一法師の開基と伝えられ、天台宗檀林として栄えた。十代の恵賢法師が家康の命で敵軍調伏を祈願した。

美術館には調伏祈願のときの恩賞品が多く展示されている。

◎雨引観音（楽法寺。真壁郡大和村）

真言宗の寺で仁王門（県文化財）は、鎌倉将軍宗尊親王の起願によって創建されたという。坂東第二十四番寺。本尊は延命観世音で、秘仏のため常時拝観することができない。

◎フラワーパーク（八郷町下青柳）

敷地約三〇ヘクタールという茨城県随一の規模を誇る花と緑の公園で、園内には、世界のバラ五〇〇品種三万株が植栽され、その他熱帯花木があり四季のハーモニーを醸してくれる。

◎大室八幡神社（下妻市大室）

この神社は、七〇一年（大室元年）宇佐八幡宮を勧請したのがはじまりといわれ、後に源頼朝が家臣下河辺行平に命じて若宮八幡宮を勧請したと伝えられている。現在の本殿（重文）は一五七七年（天正五年）多賀谷尊経によって建立されたもので、その細部の手法には、桃山時代の地方的建築の特徴がよくあらわれている。

◎石下豊田城（石下町新石下）

豊田城は、平成四年十月に複合施設として開館し、三階から六階の展示室が明治の歌人、また「土」の作者でもある長塚節に関する資料や郷土資料等を展示した歴史資料館となっている。

第84号（No.6）　酒々井町郷土研究会々報　平成9年4月1日（火）

郷土研行事案内

平成9年4月～6月

	4月	5月	6月
史談会	休み ㊟5月の史談会は第2週に変更	10日（土）午後1:30 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑲ 講師　高橋健一先生	7日（土）午後1:30 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」⑳ 講師　高橋健一先生
名勝探訪	4月8日（火）雨天代替 11日（金） 青山霊園方面／京成酒々井駅集合 8:10 京成酒々井駅→上野→神宮外苑→銀杏並木→青山霊園→根津美術館→表参道→上野→京成酒々井駅（弁当持参も可）	6月4日（水）雨天代替 6日（金）（自由昼食） ミステリーコース／京成酒々井駅集合 8:10 ゆりかもめ 京成酒々井駅→日暮里→新橋 あとは？　帰着は5時頃	
野草の会	4月18日（金）中央公民館講堂 12:00公食 山菜を食べる会／お手伝い下さる方は9:00までに調理室に来て下さい 受付日時 4月6日（日）9:00 受付場所 中央公民館 ロビー 会費 700円 受付人数 80名 キャンセル 会田宅（[redacted]）に連絡下さい。	4月21日（月）弁当を持参して下さい。（雨天中止） 野草観察の会／観察場所 酒々井 集合場所 ①社会福祉協議会（勝蔵院）9:00 時間 ②上岩橋貝層 9:30 野草採取後 社会福祉協議会の会議室で勉強会をします。 受付日 4月6日（日） 受付時間 9:00 受付場所 中央公民館ロビー 人数 30名まで （今回から実施内容を少し変更します。）	
町内史跡めぐりハイキング（教育委員会後援）	5月18日（日）雨天代替 5月25日（日） 本佐倉城跡・将門方面／ コース　公民館（9:00）―本佐倉城跡―隣保館（昼食）―八幡神社―将門山大明神―持梗塚―公民館 15:00頃（途中で解散します）	受付 8:30から公民館ロビーでします。 行程 約10km です。（半日行程 約6kmも受け付けます。） 持ち物 弁当・飲み物（昼食時は湯茶あります） 公民館 9:00 講師 印旛郡市文化財センター 水内達彦氏 本佐倉城跡について案内していただきます。	
日帰り見学会	5月13日（火）雨天実施 茨城・雨引観音方面／ コース　酒々井（6:30出発）―桜土浦IC―岩瀬町・月山寺美術館―真壁郡・雨引観音―八郷町・茨城県フラワーパーク（昼食）―下妻市・大宝八幡神社―石下町・豊田城天守閣―谷和原―成田―酒々井（18:10）	受付日 4月6日（日）9:00 受付場所 中央公民館ロビー 会費 6,500円 定員 45名まで 出発時間 6:30に出発します。 キャンセル 3日前まで会田宅まで（TEL 496-4861）連絡して下さい。	

〃名勝探訪〃 青山霊園方面

桜の咲く頃となりました。今回は偉人が多くねむる青山霊園へ行きます。ここは、わが国最初の公営墓地で桜の名所でもあり、ピンクのトンネルが目を覆うことでしょう。

又、武蔵野の面影を残す根津美術館では、東武鉄道創始者の根津嘉一郎氏のコレクション一万点が収蔵され、その中には国宝十二点、重要美術品四十数点もあり、貴重な文化財をゆっくり鑑賞して、春うららかな一日をゆったりと過ごしてきましょう。

4/8（金）
雨天代替
4/11（金）

ミステリーコース

6/4（月）
雨天代替
6/6（金）

誘われてどこに行くのか、途中ドロドロとされないように、しっかりとついて歩きましょう。

あとがき

〃沈丁花の花の甘い香り、椿の花の蜜を吸いに飛んでくるめじろ〃と春真盛りの気配が感じられる今日この頃です。

さて、今年は役員が大巾に入れ代わりました。一部不慣れな点もあろうかと思いますが皆様の御意見を載きながら楽しく新しい発見をされるような企画をしていきたいと思います。

さわやかな春の一日、郷土研でお会いしましょう。